



NBN

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部会報 第13号

新潟防災ネットワーク

Niigata Bousai Network

平成28年3月20日発行

支部長 西潟清二

会員の皆様、お元気で過ごしていることと思います。支部長を引き継いで今年で3年目を迎えます。昨年9月は低気圧の影響で茨城県常総市を始め栃木県、宮城県など複数の自治体で甚大な被害に見舞われ、9月15日現在、死者7名、負傷者46名、住家被害約1万9千棟に上り多くのインフラが破壊され、直接被害のなかった住民の方々も不自由な生活を余儀なくされました。今もご苦労されているのではと心が痛みます。

「鬼怒川」のいわれを思い、自分が住んでいる地名に改めて注意を払っていただきたいと思えます。報道を見聞きすると異口同音に「今まで何十年と住んでいるがこんなことは初めてだ」言っておられます。災害例を他人事として捉えられていたのではないのでしょうか。私たち防災士の役目は県内、国内の災害事例を紹介し「備

え」や「早めの避難」の重要性を伝え「あの時、こうしておけば良かった」と後悔しないよう皆で啓発活動に取り組んで行きますよう。

会員防災士の活動

「佐渡市総合防災訓練に参加して」

佐渡地区 渡辺明則

佐渡市は東日本大震災をきっかけに、自主防災組織の整備と活性化に向け、防災士をその中心と位置づけ育成しています。

平成27年11月8日に、佐渡市総合防災訓練が、小木港北埠頭を会場に実施されました。私は防災士を取得し、佐渡地区郵便局長会の代表として、初めて参加させて頂きました。

この防災訓練は地域住民と連携し、緊張感のある素晴らしいものでした。

「シェイクアウト訓練」では小

木、羽茂、赤泊から千人を超える参加者が真剣に訓練をしていました。もし、身近な所で災害が起こったとしたら、私は防災士として、的確な判断で行動出来るか不安になりました。日頃から危機感を持ち、訓練等を行う事の大切さを感じました。

また、「津波避難訓練」は小木、羽茂、赤泊以外にも35団体が参加し、佐渡市との連携強化と、防災士を中心に地域住民の防災に対する理解と知識の高揚を図る事を目的に実施されました。今後はもっと多くの団体が参加して頂けるように働きかけて行きたいと思えます。

最後に、日本防災士会新潟県支部佐渡地区は組織が40名程と小さいですが、これからも地域の住民の為に、地域の自主防災組織の要として活動してまいります。

地域コミュニティと自主防災組織

下越地区副支部長

佐藤隆平

私の居住地である関川村も早い時期から各集落単位での自主防災組織設立を求めてきました。ようやく関係機関や住民の努力でほぼ組織が設立されました。

そして、平成26年1月には、各自主防災組織の集合体である「関川村自主防災会連絡協議会」も設立しその目的は、村内各自主防災会の連絡調整を図り、自主防災体制を充実、強化すること、その事務局は、関川村役場総務課に置くこととなりました。

さて、自主防災活動を活発に推進する為に重要な「地域コミュニティとそのリーダー」について考えてみたいと思います。少子高齢化、人口減、地場産業の変化から地域就労者の減少等により伝統的な地縁団体の消滅又は希薄化が顕著になってきました。

従来の地域コミュニティは、伝統的な自治会、青年団、婦人会、PTA、子供会などの地縁団体が主な担い手であり、かつそこからは自然発生的に熱意あるリーダーも育成され、各団体のリーダーは使命感を持って地域全体の調整役も担っていました。

しかし現代社会は、特定の目的に特化した団体及び個人が多く形成されてきたために、地域の中の総合的コミュニティ機能には対応しづらくなってしまいました。

そこで、自主防災活動は「住民の命を守ることを全住民共通の第一目的としているので、防災技術の習得だけではなく、地域独自の子供から老人までの課題・文化風習・行政との在り方等身近なことを幅広く話し合い、一部過去とは違う形態の地域づくりも必要で、結果「地域に生きる安心と楽しさ」を共有出来れば、自主防災活動は必然的に成果が得られ、絶好

の地域づくりのテーマと考えます。

★「つまらない防災」から

「楽しい防災」へ★

中越地区 長島あさひ

この1年間、県内はもちろん県外での防災イベント・防災啓発活動を行ってきました。

また9月10日に発生した「関東・東北豪雨」の鬼怒川決壊では自身初となる災害ボランティアとして新潟県返しの方々と一緒に栃木市へ日帰りで行ってきました。

災害の起きた地域はもちろん、そうでない地域も防災意識が高いという事に驚きました。

また、「親子で楽しみながら防災を学ぶ」というイベントもあり、子どもにもわかりやすく、楽しみながら防災を学べるのはとても素晴らしいことだと思えます。

今年是小雪・暖冬と言われている中、1月25日には長岡

市が大雪に見舞われました。8号線も大渋滞が起き、さまざまメディアに取り上げられていました。毎年雪が降るにも関わらず、こういったことが起きてしまいました。これも一種の災害です。

災害は、いつ起きてもおかしくない、身近なことです。一人ひとりの防災意識を高めれば少しでも多くの命が助かると思えます。

若い方や子育て世代は、あまり防災に対して積極的ではないので、若い世代の方々にも、防災の大切さを知っていただくような今後も講演会やイベント等で活動していきたいと思えます。それが私達防災士としての役目だと思います。



長島防災士 活動の様子



学校への防災教育について 報告

平成28年10月27日

新潟地区 駒澤 幸雄

新潟市では市内小学校を対象に防災教育を26年度より実施し、地元立仏小学校もモデル校として地域と学校パートナーシップ事業活動をやっております。新潟地震より51年となり体験者と言う事で平成27年11月26日学校防災授業を行いました。

小学校設立は新潟地震後10年、田んぼの真ん中に新設された生徒はじめ親御さんは新興住宅が立ち並び、新潟地震の爪痕は全く感じられない状況、明治17年信濃川本流を現在に異動し埋め立て、電車を通し、田畑をつくり村が形成されてきた。

震災時、田畑は砂と地下水が吹き上げ、電車線路は曲がり国道が陥没、液状化現象による建物被害も発生、被害を受けた地域でもあり今後も心配の種である。

地域を知っておこうと6年生2クラスに対しパワーポイントにて近隣の被害状況を伝え、

・可能性のある災害を考えてみよう。

・どんな時に起こるか？

・みんなはそんな時どうする？

・何をしておくか？

日頃の備え等防災授業を行った。

生徒より感想文を頂く

・新潟地震のことは教科書で見えたことはなかった。

・黒埼地区も大被害を受けていたことが分かった。

・中越沖地震のとき長岡にいた時、壁がくずれていたことを思い出す。自分の身は自分で守る。

・家具の転倒防止を家族で話し合った。

・今後緊張感をもって訓練に臨みます。



駒澤防災士 学校防災授業の様子

新潟県支部からのお知らせ

事務局通信

活動状況

- 27.9.6 新潟県市町村防災リーダー研修会講演
- 27.9.30 日本防災士会新潟県支部役員会（新潟）
- 27.10.13 常総市水害ボランティア（十日町社協）
- 27.10.23 防災ネット会議（防災フェスタ）
- 27.11.7 新潟県・十日町市防災シンポジウム
- 27.11.14 村上市養成防災士スキルアップ指導（DIG）
- 27.11.16 新潟県女性防火クラブ講演
- 28.1.18 北信越連絡協議会総会・研修会打ち合わせ
- 28.1.26 東日本支部長会議
- 28.2.10 第1回防災スペシャリスト養成講座会議
- 28.3.15 第2回防災スペシャリスト養成講座会議

今後の予定等

- 平成28年度新潟県支部総会
5月9日 日曜日
- 日本防災士会北信越支部総会
研修会（長岡市） 7月下旬頃

※の法人日本防災士会 新潟県支部 会員募集

では、会員を募集しています。あなたの地域で防災士を取得されている方で、さらなるスキルUPを希望されていたり、新潟県内や全国の様々な情報を欲している方はいませんか？現在、県支部会員（12月31日現在）は、新潟地区29人 下越地区6人 上越地区9人 中越地区31人 佐渡地区41人 合計116人になっています。新潟県自主防災コーディネーター登録者数は4月1日現在151名ということです。日本防災士会 新潟県支部では、防災活動に関する様々なニーズにお応えできる研修会や情報提供を行っております。入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

※の法人日本防災士会・新潟県支部事務局
エヌシーイー株式会社内
新潟市中央区網川原1丁目
4番11号

電話：025-285-8540

FAX：025-285-3531

ホームページ

：<http://www.nceinc.co.jp/>

メールアドレス

housaisikai-niigata@nceinc.co.jp

編集後記

今冬の少雪の影響はどこに出ているのでしょうか。

防災、災害の番組が多く放送されるようになりました。社会の関心の高さがうかがえます。これに比例し、防災士にもより質のよい知識と技術が求められてきます。訓練の際、質問に対して正確に答えられるよう、各地の研修会に参加し、勉強したいと思います。

13号目となるこの機関紙、今号より誌面を縦書きに致しました。

皆様からのご意見等お待ちしております。（正）